

令和5年度一般会計決算の概要

※（ ）内は前年度の数値、百万円未満切捨て

1 収支の状況

- (1) 令和5年度一般会計決算額については、歳入が1,473億2,000万円、歳出が1,441億700万円で、前年度との比較では、歳入がマイナス1.3% (0.2%)、歳出がマイナス0.4% (0.7%) となった。歳入、歳出ともに、令和元年度以来5年連続で1,400億円を上回った。
- (2) 決算額の予算現額に対する収入率は94.0% (93.4%)、執行率は92.0% (90.5%) で、前年度と比べ収入率は0.6ポイントの増、執行率は1.5ポイントの増となった。
- (3) 形式収支は32億1,200万円で、前年度と比べ13億8,700万円の減、また、実質収支は繰越明許費繰越額4億8,200万円を差し引いた27億2,900万円で、前年度と比べ15億7,100万円の減となった。

なお、平成24年度決算から実質収支額全額を地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額としているため、翌年度への繰越額は0円である。

2 歳入の状況

- (1) 特別区税は、収入済額367億2,500万円で、過去10年間で1番の高額となった。対前年度比はプラス2.5% (3.8%)、額では8億8,600万円の増で、歳入全体に占める構成比は24.9% (24.0%) となった。
- (2) 特別区交付金は、収入済額377億円で、過去10年間で1番の高額となった。対前年度比はプラス6.9% (4.9%)、額では24億3,700万円の増で、構成比は25.6% (23.6%) となった。
- (3) 国庫支出金は、収入済額263億7,700万円で、対前年度比はマイナス22.1% (-18.0%)、額では74億7,900万円の減で、構成比は17.9% (22.7%) となった。

3 歳出の状況

- (1) 義務的経費については、支出済額699億800万円で、対前年度比プラス3.2% (-3.7%)、額では21億4,100万円の増となった。また、歳出全体に占める構成比は48.5% (46.8%) で、前年度と比べ1.7ポイントの増となった。

このうち、人件費は226億7,200万円で、対前年度比マイナス3.2% (0.4%)、額では7億3,800万円の減、構成比は15.7% (16.2%) となった。

また、扶助費は445億8,900万円で、対前年度比プラス8.1% (-5.4%)、額では33億3,700万円の増となった。構成比は30.9% (28.5%) となった。

公債費は26億4,500万円で、対前年度比マイナス14.8% (-9.8%)、額では4億5,800万円の減で、構成比は1.8% (2.1%) となった。

- (2) 投資的経費については、支出済額141億2,100万円で、対前年度比マイナス17.0% (17.2%)、額では28億9,800万円の減で、構成比は9.8% (11.8%) となった。
- (3) その他の経費については、支出済額600億7,800万円で、対前年度比プラス0.2% (1.9%)、額では1億3,400万円の増で、構成比は41.7% (41.4%) となった。